

第1学年A組 国語科学習指導案

授 業 者	工藤 優花
研 究 協 力 者	成田 雅樹、高橋 菜由
教材分析協力者	岡 英里奈

1 単元名 こんなことがあったよ ～こんしゅうのぼく・わたし～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

子どもたちは、友達の名前を自由帳に書いたり、歌詞を書き写したりするなど「書くこと」に興味が高い様子がうかがえる。また、「昨日おうちで〇〇をしたよ」、「今日の図工が楽しかったからお母さんにお話したいな」など、身の回りの出来事を身近な人に伝えたい気持ちがとても強い。

一方で、生活科のアサガオ観察シートや行事の振り返り作文を書く際には、「何を書いたらよいか分からない」、「書くことがない」と書く活動に抵抗感を抱く子どもも少なくない。これは、自分で書く内容を考えて文章に書き表した経験が少ないことや、相手意識を明確にもてていないことが原因として考えられる。また、語彙や構成についての知識不足も「上手に書けないから書きたくない」という子どもの抵抗感につながると考えられる。更に、書き始めても「これ書いてもよい?」、「これで合っている?」など、間違えることに対する不安感も大きい様子が見受けられる。以上のことから、子どもの書くことに対する抵抗感や不安感を払拭する指導の工夫が必要だと考えられる。

(2) 単元について

「書くこと」の学習過程は、題材設定・取材・構成・記述・推敲・交流の6つの段階に分けることができる。これまでの学習では、主に記述について扱っており、児童が困り感を抱えている題材設定や取材などについて詳しく扱う機会が少なかった。そこで、本単元では、「書くこと」における6つの段階を、必要感をもって全て経験できるように構想した。

単元の導入では、単元全体を通して「書くこと」の6つの段階を学んでいくことを確かめる。展開では、その時間ごとに6つの段階のうちの1～2つを重点的に取り扱うこととする。中でも、子どもがつまづきやすいと考えられる題材設定・取材の段階を丁寧に扱う。そのために、本単元では、「おうちの人に今週の学校での出来事を伝えるための文章を書く」という活動を継続して実施する。「学校での出来事」は、子どもにとって一番身近な題材であり、題材設定の経験が少ない子どもにとっても書きたい内容が思い付きやすいと考えられる。同じ出来事を共有している友達が周りにいることで、相談しながら書くことができるというよさもある。また、家族に文章を読んでもらうという相手意識をもつことも、子どもたちのよりよく書きたいという意欲につながると考えられる。単元の終末には、自分の書いた文章や、読んでくれた相手からもらったコメントを読み返す時間を設定した。自分の成長を実感することで、書くことに対する抵抗感を減らし、次単元からの書く活動につなげていきたい。

(3) 指導について

本単元では、**体験したことをもとに、「したこと」や「思ったこと」を三文程度の文章で表現する**という資質・能力を高めることを目指す。書くことへの抵抗感や不安感を覚える原因は子どもによって異なる。そのため、子どもに合わせた書く段階の指導の工夫を図りたい。

題材設定・取材の段階では、「書くことが思い付かない」という子どものために、写真や動画を活用して、今週の出来事を思い出す時間を設定する。また、「何を書いたらよいのか分からない」、「どのように書けばよいのか分からない」という子どものために、記述の前に質問タイムを設定する。友達からの質問に答えるうちに、自分の伝えたいことが少しずつ明確になると考えられるからである。

構成・記述の段階では、自分のペースで学習に取り組むことができるように、複数の種類の用紙を準備したり座席に配慮したりする。また、取材の際に友達に質問されたことやそれに対する答えをメモに書き出すことで、構成の手助けになるようにしたい。

推敲・交流の段階では、自分で読み返す、友達に読んでもらう、友達から感想をもらう、友達に感想を言うといった経験を積む中で、記述の間違いや表現の善し悪しをただ直すのではなく、自分の文章がよりよくなったことを実感できるように、見直しに重きを置いて指導したい。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 書くための素材を日常生活の中から見付け、友達と交流しながら書く内容を決めることができる。
〈B-7、B-8〉
- (2) 体験したときの様子や気持ちが伝わるように、文章を書くことができる。
〈B-21〉
- (3) 自分の思いを書いて伝えることのよさを感じたり、楽しさを感じたりしながら進んで書こうとする。
〈ウ〉

4 単元の構想（総時数 7 時間）

すきなこと、なあに
語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書く。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの反応)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	(1) 夏休みの出来事を紹介する文章を書く。 ・先生に何を教えようかな。 ・海に行ったことを教えたいな。	・相手意識をもって書くことができるように、夏休み中の出来事を担任に伝える文章を書くという場を設定する。	・書くための素材を見付け、体験したときの様子や気持ちが伝わるように文章を書くことができる。 〈B-7、B-21〉
2	(2) 伝えたい相手を選び、共通の題材を用いて、今週の出来事を文章に書く。 ・学校のことを教えたい。 ・どんなことをしたかあまり思い出せないな。	・文章を書く際の手順に気付くことができるように、学級全体で 1 つの出来事をテーマに設定し、書く活動に取り組む。	・書くための素材を見付け、体験したときの様子や気持ちが伝わるように文章を書くことができる。 〈B-7、B-21〉
3 4 5 6 本時	(3) 今週の出来事の中から 1 番伝えたいことを選んで、伝えたい相手に文章を書く。 ・質問されたことを書くといいね。 ・友達と話しているうちに何をしたら詳しく思い出してきたよ。 ・友達の使っているこの言葉を自分も使ってみたいな。	・今週の出来事について想起し、伝えたいことを見付けることができるように、今週の出来事を学級全体で振り返る場を設定する。 ・伝えたいことを明確にすることができるように、質問タイムを設定する。 ・出来事や気持ちなど、質問されたことをメモに書いて区別できるようにする。 ・課題に合わせて書く活動に取り組むことができるように、交流スペースと書くスペースを設け、取り組む活動によって自由に行き来できるようにする。	・書くための素材を見付け、友達と交流しながら書く内容を決めることができる。 〈B-7、B-8〉 ・体験したときの様子や気持ちが伝わるように文章を書くことができる。〈B-21〉 ・自分の思いを書いて伝えることのよさを感じたり、楽しさを感じたりしながら進んで書こうとしている。〈ウ〉
7	(4) 単元のまとめをする。 ・お母さんに読んでもらって、うれしかったな。 ・文の数を増やすことができうれしい。	・単元を通して成長したことを実感することができるように、自分の書いた文章を読み返す時間を設定する。	・友達と書いたものを読み合い、感想を伝え合ったりして、自分の思いを書いて伝えることのよさや楽しさを感じている。〈B-21〉

◎本単元で育む主な資質・能力
体験したことをもとに、「したこと」や「思ったこと」を三文程度の文章で表現する。
〈B-21〉

しらせたいな、見せたいな
書こうとする題材に必要な事柄をよく観察し、語と語や文と文との続き方、誤字・脱字に注意しながら書く。

5 本時の実際（4／7）

(1) ねらい 体験したときの様子や気持ちが伝わるように、友達と交流しながら書くことを決め、三文程度の文章に書くことができる。 (B-7、B-21)

(2) 展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
10分	① 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 こんしゅうのできごとをもっとくわしくつたえよう。	・本時の書く活動の参考となるような文章を取り上げ、全体で推敲する場面を設定する。
32分	② 友達と交流しながら書くことを決め、「今週の出来事」を文章に書く。 〈友達と交流している子どもの反応〉 △何を書こうか思い付かないな。 △体育の時間のことを書きたいけど、詳しく覚えていないな。 △よい質問が思い付かないよ。 ○体育の時間楽しかったことを書きたいな。 ○□□さんは何のことを書くのかな。 〈文章を書いている子どもの反応〉 △何を書いたらよいか分からないな。 △これで合っているか不安だな。 △質問されたことを全部書こう。 △たくさん質問されたけど、どれを選んだらよいのか迷うな。 ○友達と相談しながら書きたいな。 ○この前うちの人が褒めてくれたから、今日もたくさん書きたいな。 ○今日はたくさん書きたいから、線だけの用紙にしよう。 ○質問されたことの中から、どれを文章に書こうかな。	・今週の出来事を想起できるように、写真や動画を提示する。 ○伝えたいことを思い出したり、明確にしたりすることができるように、記述の前に質問タイムを設定する。 ○友達に質問されたことを整理することができるように、メモ用紙を準備する。 ○自分の課題に合わせて学習に取り組むことができるように、書くスペースと交流するスペースを設ける。 ○自分が書きやすい用紙を選択することができるように、マス目の原稿用紙と罫線の原稿用紙を準備する。 ・自力で書き進めることが難しい子どもには、一緒に写真を見返したり、質問したりするなどして個別に支援する。
3分	③ 学習の振り返りをする。 〈予想される子どもの反応〉 ・質問されたことを全部書こうとしたら、書き切れなくて困ったよ。 ・この前よりもたくさん書けてうれしいな。 ・うちの人は、なんて言ってくれるかな。楽しみな。	・次時への意欲になるように、本時の気づきを共有する時間を設定する。 友達と交流しながら書くことを決め、体験したときの様子や気持ちが伝わるように、文章を書くことができる。 (B-7、B-21) (学習シート、観察)



令和 8 年度 国語科実践・研究計画

部 員 ○工藤優花 鎌田佳佑 石井知徳

I 国語科における 自律した学習者の姿

- 1 自分に適した学びの道筋を選択し、進んで学びに向かいながら、言葉の力を高めている姿
- 2 根拠を基に自らの解釈や表現を吟味し、よりよいものにしていく姿
- 3 問いの積み重ねを基に、言葉に関する選択・決定を省察する姿

II 国語科における 授業デザインの取組

- A 個々の子どもに応じた学習材の提示や学習展開の工夫ができるように、授業の内外で子どもの姿を的確に見取る。
- B 自らの解釈や表現に対して、その解釈・表現に至った根拠をもって学びに向かうことができるような学習活動の工夫をする。
- C 自身の振り返りや、仲間と関わって得たことを基に、自分の考えはどのように変わったのか、問い直す場を設ける。

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	他の児童の役割演技を自分の役割演技と比較して、同じ教材文を読んでも、なぜ違う動きをしているのかを考えている姿 (1、2)	役割演技の解釈の在り方を紹介し合っ て、根拠となる叙述について、その妥当 性を検討したり、新たな解釈を練ったり する時間を設定したこと (A、B)
	十七音で自分の気持ちを伝えるた めに、よりよい言葉はないか表現を吟 味する姿 (2、3)	一般的な知識ではなく、句会を通して 子どもたちがよいと感じた俳句を取り上 げ、共通点を「よい俳句の条件」として まとめたこと (A、B)
	どの本が主人公の心を動かすかに 重点を置き、主人公への願いを語りな がら自分の在り方を見つめ直す姿 (1、3)	自分と物語を関わらせながら読むこと ができるように「主人公におすすめの一 冊を選ぶ」という学習活動を設定したこ と (B、C)
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	役割演技や句会、選書などの言語活 動に取り組んでいるが、考えが深まら ない姿 (2、3)	取り扱う言語活動について、子どもた ちの学習活動の中にどのような目的で位 置付けられているのか、どれだけ有効な 手段であるのかを子どもたち自身が理解 できるようにする。(A、B) 何度も文章を読み返す必要感のある活 動を設定する。(A、B)

令和8年度「国語科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容			1年	2年	3年	4年	5年	6年
			1・2年	3・4年	5・6年						
国語科の学びに向かう力、人間性等	ア	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■
	イ	よりよい話し方、聞き方を意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。	A	A	A	■	■	■	■	■	■
	ウ	自分の思いを書いて伝えることのよさを見付けたり楽しさを感じたりしながら、進んで書こうとする。	B	B	B	■	■	■	■	■	■
	エ	書かれている事柄の順序や文章の構成、場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして読もうとしている。	C	C	C	■	■	■	■	■	■
	オ	表現したり理解したりするために、必要な語句を進んで増やそうとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■

国語科の各領域の付けたい力 A話すこと・聞くこと	1	場に応じて、適切な声量や速さで、はっきりとした発音で話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	■	■	■	■	■	■
	2	結論を先に、理由を後につけて発言する。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	3	身近な出来事について、適切な長さでスピーチをする。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	4	相手との関係や、その場の状況に応じた言葉遣いで話す。	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	□	□	□	■	■	■
	5	頷きや眼差しなどで相手に反応を示しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	■	■	■	■	■	■
	6	話の内容を落とさず、間違いなく聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	7	話の中心点を理解して聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	8	身近なことや、自分が経験したこと、観察したことなどの中から話題を決める。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	9	日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うことなどから話題を決める。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	10	学校や家庭、地域のことなどで興味や関心をもっている事柄を想起し、一つの話題に絞る。			A(1)ア					□	■
	11	話すために必要な事柄を思い出して書き出す。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	12	本や文章を読む、人に聞く、図表や絵、写真などを見るなどの方法から選択し、調べたことの要点をメモする。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	13	取材した内容を比較したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かす。			A(1)ア					□	■
	14	相手の話に対する賛否を明確に表す。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	■	■	■	■	■	■
	15	相手の話に口を挟まずに聞く。	A(1)エ	A(1)エ、知(1)イ	A(1)エ、知(1)イ	■	■	■	■	■	■
	16	丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。	知(1)キ	知(1)キ	知(1)キ	□	■	■	■	■	■
	17	起こった事柄の順序にしたがって話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	18	分かったこと、考えたことについて、筋道を立てて話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	19	大事な事柄から話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	20	聞き逃したことを問い返したり、不明確な点や確かめたいことを問いだしたりする。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	■	■	■	■	■
	21	図表や映像を提示したり、身振りや手振りで内容を補ったりして話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	□	□	■	■	■	■
	22	複数の事柄を比較しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	23	必要な情報を選んで聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ		□	■	■	■	■
	24	話し合ったことを基に、自分の問題意識を深めたり、焦点化したりする。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	□	□	■	■	■	■
	25	聞いたことを正確に再現して話す。	A(1)アイ	A(1)アイ	A(1)アイ	□	□	□	■	■	■

	26	伝えたい内容や気持ち、その場の状況に合わせて、大事な言葉を強調したり繰り返したりするなど工夫して話す。	A(1)イウ	A(1)イウ	A(1)イウ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
	27	尋ねたいことを見付けて質問したり、質問に答えたりする。	A(1)エ, オ	A(1)エ, オ	A(1)エ, オ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	28	見聞きたり、読んだりしたことについて、考えたことを話し合う。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
	29	話題に即した話をする。	A(1)イオ	A(1)イオ	A(1)イオ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
	30	話を聞きながらその内容を記号や省略、矢印などを使って工夫してメモし、相手の主張や論理を整理してとらえる。		A(1)ア	A(1)ア			☐	☐	☒	☒
	31	定められた時間内に話す。		A(1)エ	A(1)エ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
	32	問題に適した話合いの内容・方法・相手等を決める(選ぶ)。		A(1)オ	A(1)オ			☐	☐	☒	☒
	33	内容を選び、主旨を明確にして話す。		A(1)イ	A(1)イ			☐	☐	☒	☒
	34	相手の話を引用しながら話す。		A(1)イ	A(1)イ			☐	☐	☒	☒
	35	資料や事実に基づいて、具体的に話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	☐	☐	☐	☐	☒	☒
	36	メモを基にして話す。		A(1)イ	A(1)イ			☐	☐	☒	☒
	37	相手や目的に応じ、筋道を立てて適切な言葉遣いで話す。		A(1)イウ, 知(1)キ	A(1)イウ, 知(1)キ			☐	☐	☒	☒
	38	自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、概説したり、結論付けたりして、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。			A(1)イ					☐	☒
	39	事柄が明確に伝わるように、必要な文言や数値などを引用したり、図解したり、重要語句の定義付けをしたりするなどの工夫をする。			A(1)ウ					☐	☒
	40	相手の話の内容と自分の考えとの異同を確かめながら聞く。		A(1)エ	A(1)エ				☐	☒	☒
	41	話し手の意図を推し量りながら聞く。		A(1)エ	A(1)エ			☐	☐	☒	☒
	42	自分の考えと関連する点を探しながら話を聞く。			A(1)エ					☐	☒
	43	主張されていることの根拠が妥当かどうか、信憑性があるかどうか考えながら聞く。			A(1)エ					☐	☒
	44	聞き手の反応をうかがいながら話す。			A(1)ウ					☐	☒
	45	互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	46	話合いの流れを的確に把握し、臨機応変に話題を広げたり深めたりする発言をする。			A(1)オ					☐	☒
	47	話合いの意義や成果をまとめて話す。		A(1)イ	A(1)イ			☐	☐	☐	☒
	48	相手の意見の不適切な点や、不備な点を指摘したり、補ったりしながら話し合う。			A(1)オ					☐	☒
	49	相手の反応を先取りした上で、自分の考えを話す。			A(1)ウ					☐	☒
	50	相手に分かりやすい順序を工夫して話す。		A(1)イ	A(1)イ				☐	☐	☒
国語科の 各領域の 付けたい力 B 書くこと	1	履修した漢字を書く。(平仮名、片仮名も意識して)	伝(1)ウ(ア)(イ)	伝(1)ウ(ア)(イ)	伝(1)ウ(ア)(イ)	☒	☒	☒	☒	☒	☒
	2	主述が明確な文を書く。	B(1)イ, 伝(1)イ(カ)	B(1)イ	B(1)イ	☒	☒	☒	☒	☒	☒
	3	原稿用紙を正しく使って文章を書く。	B(1)イ, 伝(1)イ(エ)	B(1)イ, 伝(1)イ(オ)	B(1)イ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	4	読んだり、聞いたり、体験したりしたことの感想を、適切な長さで書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
	5	読んだり、聞いたりした通りに正しく書き写す。	B(1)イ	B(1)イ	B(1)イ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
	6	誤字・脱字に注意し、形を整えて文字を書く。	伝(1)イ(エ)(オ)	伝(1)イ(ウ)(エ)	伝(1)イ(ウ)ウ(ア)	☒	☒	☒	☒	☒	☒
	7	書くための素材を、五感を働かせて日常の言語生活の中から見つける。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	8	見聞きたる出来事や経験したこと、想像を膨らませて考えたことなどから書くことを決める。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	9	書くために必要な事柄を書き出し、伝えたい内容に必要な事柄かどうかを確かめながら書く。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	10	書くために必要な資料に見当をつけ、学習計画を立てたり見直したりする。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	☐	☐	☐	☒	☒	☒
	11	大事な事柄から順に、構成を工夫して書く。	B(1)イ	B(1)イ, 伝(1)イ	B(1)イ, 伝(1)イ	☐	☐	☐	☒	☒	☒

	12	興味・関心のあること、経験したり人から聞いたりしたこと、本を読んで知ったことなどから自分なりに関心を深めて、書くことを決める。		B(1)ア	B(1)ア			☐	■	■	■
	13	知識を得たり考えを深めたりするためのもの、意見の理由となるものや事例など、書くために必要なことを取材する。		B(1)ア	B(1)ア			☐	■	■	■
	14	いくつかのことを比較したり関係付けたりしながら課題意識を明確にして書くことを決める。			B(1)ア					☐	■
	15	情報検索したり取材したりした事柄を、文章の構成や記述に役立つように整理する。			B(1)ア					☐	■
	16	取材したことの順序に沿いながら、「始め—中—終わり」の構成を意識して内容のまとまりごとにいくつかに分けて配列する。	B(1)イ	B(1)イ	B(1)イ	☐	■	■	■	■	■
	17	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の關係に注意して文章を構成する。		B(1)イ、 伝(1)イ(エ)	B(1)イ			☐	■	■	■
	18	「冒頭部—展開部—終結部」の各部分での段落の役割を意識する。		B(1)イ、 伝(1)イ(エ)	B(1)イ、 伝(1)イ(エ)			☐	■	■	■
	19	物語や説明的な文章の典型構成を知り、それらを目的や意図に応じて効果的に用いて、自分の考え及び相手の理解が明確になるように文章を構成する。			B(1)イ、 伝(1)イ(キ)					☐	■
	20	体験したり調べたりしたことの順序が分かるように書く。	B(1)イ	B (1) イ 伝 (1) イ	B(1)イ	☐	■	■	■	■	■
	21	体験したときの様子や、調べた内容が分かりやすく伝わるように、五感を働かせて詳しく書く。	B(1)アイ	B (1) アイ、 伝 (1) イ	B (1) アイ、 言 (1) イ	☐	☐	■	■	■	■
	22	調べたことから大事な箇所を引用して書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)エ		☐	■	■	■	■
	23	読んだり聞いたりしたことについて、自分の考えをまとめて書くことにより、自分の課題意識を明確に文章にする。	B(1)イ	B(1)イウ	B(1)イウ		☐	■	■	■	■
	24	前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えて書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	☐	■	■	■	■	■
	25	離れたところにある語と語や文と文の関係を考えてつながりのある文章を書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	☐	■	■	■	■	■
	26	調べたことを要約して書く。		B (1) ア、 C (1) エ	B (1) ア、 C (1) ウ			☐	■	■	■
	27	「なぜかというと～」 「その理由は～」 「～のためである」などの表現を用いて、中心の内容や段落に対して、原因や理由を挙げたり、分かりやすく説明するために事例を挙げて書く。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			☐	■	■	■
	28	「例えば～」 「事例を挙げると～」 「～などが当たる」などの表現を用いて、実例を挙げたり、具体的な本や文章、絵、写真などの事物を取り上げたりして描写や説明をする。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			☐	■	■	■
	29	相手や目的に応じて、敬体と常体を意識的に使い分けたり、「～だ」「～である」「です」「ます」などの文末表現に気を付けて書く。		B(1)エ	B(1)ウエ			☐	■	■	■
	30	伝えたいことが分かるように、何かに例えたり、具体的事例を挙げたりして書く。	B(1)ウ	B(1)ウエ	B(1)ウエ	☐	☐	☐	☐	■	■
	31	事実と意見、原因と結果を明確にして論理的な文章を書く。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			☐	☐	■	■
	32	図表やグラフ、写真等を用いて、自分の文章を補足しながら書く。			B(1)ウエ				☐	☐	■
	33	「事実」(出来事や科学的な事実、物語で描写されるフィクションの世界など)と自分の感想、意見を区別し、目的や意図に応じて詳しく書いたり簡単に書いたりする。			B(1)ウエ					☐	■
	34	自分の考えを根拠付けたり、具体的な例を示したりする際に、本や文章から必要な語句や文を引用して自分の表現に取り入れる。			B(1)ウエ					☐	■
	35	自分の文章を読み返したり、友達の文章を読んだりすることによって、自分の文章を推敲する。	B(1)エ	B(1)オ	B(1)エ	☐	☐	☐	■	■	■
	36	数量や規模を明示したり、重要な言葉を引用したりしながら、説得力のある文章を書く。		B(1)アイ	B(1)アイ エ			☐	☐	■	■
	37	自分や友達の学びの成果が、次の学習に生かされるように、視点を明確にした具体的なふり返りを書く。	B(1)エ	B(1)オ	B(1)オ		☐	☐	☐	■	■
	38	自分の気持ちがよりよく伝わるように、適切な内容及び言葉(敬語・時候の挨拶など)を選んで手紙やメッセージを書く。	B (1) ア、 伝 (1) イ	B (1) アウエ、 伝 (1)	B (1) アウ、 伝 (1) イ		☐	☐	☐	■	■
	39	自分の考えを伝えるのに最も適した語句や文種、表現技法を選択し、その特長を生かしながら書く。		B(1)ア	B (1) ア、 伝 (1) イ			☐	☐	☐	■
	40	書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合う。	B(1)オ	B(1)カ	B(1)カ	☐	■	■	■	■	■
	41	書いたものを読み合ったり音読し合ったりして発表し合い、考えの明確さや書き方の巧みさなどについて意見を述べ合う。		B(1)カ	B(1)カ			☐	■	■	■
	42	書いたものを発表し合って交流し自分の考えをもつとともに、書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する。			B(1)カ					☐	■
国語科の 各領域の 付けたい力 C 読むこと	1	スラスラと適切な速さと声量で音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
	2	当該学年までの履修済みの漢字をすべて読む。	知(1)エ	知(1)エ	知(1)エ	■	■	■	■	■	■
	3	書かれてある事柄の順序が分かる。	C(1)ア			■	■	■	■	■	■
	4	週に1冊は読書をする習慣を身に付ける。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	☐	☐	■	■	■	■
	5	言葉の意味を辞書で調べ、文脈に即して理解する。		知(2)イ	知(2)イ	☐	☐	☐	■	■	■
	6	文章中の言葉を根拠にしなが、人物の行動の様子やその意味を考えたり、気持ちを想像したりする。	C(1)エ	C (1)エ	C(1)エ	☐	■	■	■	■	■
	7	明瞭な発音で音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
	8	ひとまとまりの語や文として音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■

9	言葉の響きやリズムなどに注意して音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	☐	☒	☒	☒	☒	☒
10	強弱や間の取り方、抑揚の付け方などに注意して、読み取ったことがよりよく伝わるように音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	☐	☐	☒	☒	☒	☒
11	文章全体の内容や構成からその中心を把握し、軽重や速さなどを考えて音読する。		知(1)ク	知(1)ク			☐	☒	☒	☒
12	七音五音を中心としたリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	☐	☐	☐	☒	☒	☒
13	語り手や登場人物の人物像をとらえ、どのように語りたいかを決め、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気を付けて音読する。		知(1)ク	知(1)ク				☐	☒	☒
14	文章全体に対する思いや考えをまとめ、そのことを相手に分かってもらえるように表現性を高めて朗読する。			知(1)ク					☐	☒
15	目的に応じて、「比べ読み」「速読」「摘読」「多読」など多様な読み方を選択し、活用する。			知(1)ク					☐	☒
16	書かれている事柄の違いを比較することで、その意味が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
17	説明されている事柄の位置関係や構造を、図示したりしながら正確に理解する。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
18	事柄の原因と結果の関係が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
19	話の筋や論理の展開が分かる。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
20	書かれていることの特殊性と一般性、具体性と抽象性の類別をして、文章の構造や内容を理解する。		C(1)ウ	C(1)ウ		☐	☐	☒	☒	☒
21	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら文章の大体を読む。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
22	「問い」と「答え」という基本構成をとらえ、「問い」に対する「答え」を読み取る。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	☒	☒	☒	☒	☒	☒
23	「始め」「中」「終わり」の文章構成をとらえ、中心となる文を手がかりに要点をまとめる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア		☐	☐	☒	☒	☒
24	「序論」「本論」「結論」の三部構成をとらえ、中心となる段落を手がかりに文章の要旨をとらえる。		C(1)ア	C(1)ア				☐	☐	☒
25	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係をとらえながら読む。		C(1)ア	C(1)ア			☐	☒	☒	☒
26	中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			☐	☒	☒	☒
27	筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べているかをとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			☐	☒	☒	☒
28	事実を説明している言葉の指し示す範囲に揺れがないかどうか考える。		C(1)アウ	C(1)アウ				☐	☐	☒
29	文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方、巧みな叙述などに注意して、求められている分量や表現の仕方に合わせて要旨をとらえる。			C(1)ア					☐	☒
30	筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験、考えたことと関係付け、自分の考えを明確にしながら読む。			C(1)アオ					☐	☒
31	文章構成を区分することによって、文章の要旨や主題を的確にとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			☐	☒	☒	☒
32	図表や、絵、写真等が、どのように文章を補っているかを考えながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ			☐	☐	☒	☒
33	筆者の書き方の工夫やよい点・不十分な点を考えながら読む。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	☐	☐	☐	☐	☒	☒
34	筆者の主張の根拠が適切かどうか考えながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				☐	☐	☒
35	結論と具体的事例の整合性を判断しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				☐	☐	☒
36	筆者の推論や解釈、例示などの妥当性を吟味しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				☐	☐	☐
37	物語に共感し、書かれていることの真偽や善悪、美醜、有用・無用の判断をしながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	☒	☒	☒	☒	☒	☒
38	事柄や人物の設定(誰が・いつ・どこで・何をした)が分かる。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	☒	☒	☒	☒	☒	☒
39	物語の展開に即して各場面の様子が変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握し、その様子を想像しながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
40	登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、それらの人物像を読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
41	人物描写の特徴から、その人物のものの見方や考え方の特徴や言動の変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		☐	☐	☒	☒	☒
42	物語のクライマックスを見つけ、そこで起きている出来事から分かる強調点や変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
43	各場面の様子に気を付けながら場面と場面を関係付けて読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		☐	☐	☒	☒	☒
44	物語や詩の描写を、想像力を働かせながら読む。		C(1)エ	C(1)エ			☐	☒	☒	☒
45	書かれていることを基に問いをつくり、答えを仮定したり根拠となる言葉を探したりする。		C(1)イエ	C(1)イエ		☐	☐	☒	☒	☒
46	題名や見出しから、文章の要旨や主題を推察する。		C(1)イエ	(1)イエ			☐	☐	☒	☒
47	情景描写の特徴から、作品主題との関連や人物のものの見方や考え方のありようを考える。		C(1)イエ	C(1)イエ			☐	☐	☒	☒

48	一つ一つの事件・出来事の関連性から見出される意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ				☐	☐	■
49	ストーリーの展開に気を付け、描写の特徴や言葉の象徴性など、読み取ったことがより豊かに伝わるように朗読する。		知(1)ク	知(1)ク				☐	☐	■
50	登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている心情を読む。			C(1)エ					☐	■
51	句読点の打ち方の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	■	■	■	■	■	■
52	反復が強調している事柄の意味が分かる。			知(1)ク	☐	■	■	■	■	■
53	助詞や助動詞の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	☐	■	■	■	■	■
54	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割が分かる。	知(1)カ	知(1)カ	知(1)カ	☐	☐	■	■	■	■
55	文末表現によって文の意味合いが変わってくることが分かる。	C(1)イウ	C(1)イウ	C(1)イウ	☐	☐	☐	■	■	■
56	漢字・ひらがな・カタカナなどの表記の違いによって、多義的になったり、意味が限定されたりすることに気付く。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	☐	☐	■	■	■	■
57	オノマトペ(擬声語・擬態語等)の表現によって強調される意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	☐	■	■	■	■	■
58	比喩表現(直喩・隠喩・擬人法等)によって強調されている意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)ク		■	■	■	■	■
59	省略、倒置、対句など、構成上の表現の工夫によって強調される意味・内容があることが分かる。			知(1)ク			☐	☐	■	■
60	使われている語彙・表現の多義性や象徴性を考える。			知(1)オ					☐	■
61	象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、それらを評価したり、自分の表現に生かしたりする。			C(1)オ					☐	■
62	自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文を適切に書き抜く。	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	☐	■	■	■	■	■
63	自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意して読み、引用したり要約したりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			☐	■	■	■
64	感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して、自分の考えを感想文や解説文などにまとめる。			C(1)カ					☐	■
65	文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ発表し合い、交流する。(劇、話し言葉による発表・交流、書き言葉で表したものを読み合う)	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	■	■	■	■	■	■
66	楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	■	■	■	■	■	■
67	身近な生活や自身の問題意識に基づいて選択する図書の分野を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	☐	☐	■	■	■	■
68	複数の読み物の内容から、共通点や違いを見つけながら読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	☐	☐	☐	☐	■	■
69	筆者や作者、ジャンルなどの関連を意識して、読書の幅を広げ、進んで読書しようとする。		知(3)エ	知(3)エ			☐	☐	■	■
70	同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ筆者の複数の本や文章を選んで、読み比べる。			知(3)エ				☐	☐	■
71	見出し・記事・写真の一貫性や「逆三角形の構成」など、編集の仕方や記事の書き方などに注意して新聞を読む。		C(1)ア	C(1)ア				☐	☐	■
72	昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	☐	■	■	■	■	■
73	優しい文語調の短歌・俳句について情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。		知(3)ア	知(3)ア			☐	■	■	■
74	ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る。		知(3)イ	知(3)イ			☐	■	■	■
75	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。			知(3)アイ					☐	■
76	古典の解釈文を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。			知(3)イ					☐	■

＜国語科の学びを支える「見方・考え方」＞

a 自分が伝えようとしている内容と言葉の関係に着目し、最も適した語句や表現技法を選び、その特長を活かして表現する。

b 語句の関係や表現技法の差異に着目し、文や文章表現の意味を豊かに、かつ具体的に理解する。

＜領域の学びを深める「見方・考え方」＞

話すこと c 音声の使い方、言葉や文末表現、表情などに着目して、その場に最も適切な表現を考える。

聞くこと d 相手の伝えようとする話の内容に着目して、自分の考えと比べるなどして共通点や相違点、関連などを整理しながら考えをまとめる。

書くこと e 目的や意図に応じた表現や文章構成になっているか、読み手の立場から、相手が読んで理解しやすいか考える。

読むこと f 構成や叙述に着目し、言葉や文を関係付けながら読む。